

家格	人数	備考
一門	11	角田石川氏・瓦理伊達氏・水沢伊達氏・浦谷伊達氏・登米伊達氏・岩谷堂伊達氏・岩出山伊達氏・宮床伊達氏・川崎伊達氏・白河氏・三沢氏
一家	17	鮎貝・秋保・柴田・小栗川・塩森・大条・泉田・村田・黒木・石母田・瀬上・中村・石川・中目・瓦理・梁川
準一家	10	猪苗代・天童・松前・葦名・本宮・高泉・葛西・上遠野・保土原・福原
一族	22	大立目・大町(胆沢郡)・大塚・大内・西大条・小原・西大立目・中島(江刺郡)・宮内・中島(伊具郡)・茂庭・遠藤・佐藤・畠中・片平・下郡山・沼辺・大町(宮城郡)・高城・大松沢・石母田・坂
宿老	3	着座のうち一番座の三家(遠藤・但木・後藤)
着座	28	正月等の儀式で登城し着座して藩主に挨拶する家臣
太刀上	10	正月賀礼に太刀を献上し藩主から茶を頂戴する家臣
召出一番座	38	正月宴會に召し出される家柄
召出二番座	51	正月宴會に召し出される家柄
平士(1000石以上)	6	
平士(500石以上)	68	
平士(100石以上)	994	
合計	1258	

年代(西暦)	A区画(南東側)	B区画(南西側)	C区画(北西側)	D区画(北東側)
寛文4年 1664	大立目得監 虎間 45貫文	大河内善左衛門 不明 20貫文	伊藤道泉 内科医 14貫文	林八郎兵衛 虎間 1貫文
寛文8・9年 1668~69	大立目得監 虎間 45貫文	大河内善左衛門 不明 20貫文	伊藤道仙 内科医 14貫文	林八郎兵衛 虎間 1貫文
延宝6~8年 1678~80	大立目弥覚 虎間 45貫文	大河内善左衛門 不明 20貫文	伊藤道仙 内科医 14貫文	林八郎兵衛 虎間 1貫文
延宝9年~天和3年 1681~83	記載無し	大河内善左衛門 不明 20貫文	長沢与兵衛 不明	林八郎兵衛 虎間 1貫文
元禄4・5年 1691~92	成田助之丞 虎間 50貫文	太田次郎兵衛 召出 130貫文	記載無し	林八郎右衛門 虎間 1貫文
享保9年以降 1724~	戸田喜大夫 着座 50貫文	岩山縫殿介 虎間 62貫文		佐伯太之助 不明
宝暦10年~明和3年 1760~66	記載無し	記載無し	記載無し	弓的場鉄砲屋場
天明6年~寛政元年 1786~89	大町久馬 着座 63貫文	古内進 不明	高橋定五郎 次間 40貫文	弓的場鉄砲屋場
安政3~6年 1856~59	大松沢越中 一族 61貫文	佐伯勇五郎 不明	石母田但馬 一族 100貫文	錦織即休 着座 30貫文



仙台城下絵図
天明6~寛政元年
(1786~89)

仙台藩では、1貫文=10石。
C区画は、東西に分けられている時期があるが、その場合は東側の区画を記載。
平士(大番士)は、登城した際に控える部屋の名前をとって、上位から虎間番士・中間番士・次間番士・広間番士に分けられた。

仙台城下における侍屋敷の面積規程
(『仙台市史 通史編3 近世1』より)

知行高	間口	奥行
800石以上~1000石未満	40間	30間
500石以上~800石未満	30間	
300石以上~500石未満	25間	
150石以上~300石未満	17間	
100石以上~150石未満	14間	
100石以下	12間	25間
定軽組頭	10間	
定軽	7間	
諸職人棟梁	12間	
諸職人	6間	

※寛文5年(1665)「仙台惣屋敷定」による

